

緑のセンターだより

公益財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑のセンター(相談所)

〒078-8327 旭川市神楽岡公園内 Tel 0166-65-5553 Fax 0166-65-5626

旭川市公園緑地協会ホームページ <http://www.asahikawa-park.or.jp>



No.181

発行:令和元年12月1日



講習会のご案内

(お申込み・受付は前月の20日から)

2月の講座は1月21日(火)～お申込み

「クリスマスからお正月の寄せ植え」

とき 令和元年12月8日(日) **2,500円**

午後1:00～3:00 定員20名

講師 フラワーマスター 山本裕美さん



「ハーブを使った簡単カイロ作り」

とき 令和2年1月24日(金) **1,000円**

午前10:00～12:00 定員10名

講師 ハーブコーディネーター 建部久美子さん



「果樹の剪定と栽培管理」～リンゴ、サクランボ、プラムほか～

とき 令和2年2月16日(日)

午後1:00～3:00 定員50名

講師 ふじくらますも果樹園

代表 増茂 聡さん



「植物の病害虫と園芸薬品」

とき 令和2年2月21日(金)

午後1:00～3:00 定員50名

講師 緑のセンター相談員



年末年始のお知らせ

2019年12月30日(月)～2020年1月4日(土)まで休館させていただきます

新年は1月5日(日)より開館いたします



0



展示会のご案内



神楽岡公園の自然写真展 12月 3日(火)～12月27日(金)

歩くスキーセットの無料貸出

①スキー板 ②ポール ③スキー靴(靴のサイズ調整のため、靴下をご持参ください)

期間:12月中旬を予定

受付時間:10時～最終16時まで

*積雪、コース状況は電話にて、ご確認ください。

【休館日のお知らせ】

4月～10月は第2・4月曜日が休館日です。(祝日の場合は翌日)

11月～3月は毎週月曜日が休館日です。(")

<園芸の基礎知識> 植物の葉っぱの働き

～ 葉っぱの汗 ～

■蒸散とは

夏に育つ植物たちは、猛烈な暑さと闘っています。その方法は、植物が自分のからだを冷やすという冷却能力です。太陽の強い光を受けている葉は、水を蒸発させることで、からだの温度を冷やしています。私たちが、暑いときに汗をかくのと同じです。葉っぱの汗がどこから出るかを知るために顕微鏡で葉っぱを観察します。すると、葉っぱの表面や裏面にたくさんの孔があります。これらは気孔といい、葉っぱが汗を出す孔です。気孔を通して葉っぱから水が蒸発するのを、蒸散といいます。

■根圧とは

葉っぱでの水の消費を支えるために、土の中では、根が懸命に水を吸い集めているのです。根は、土の中で、想像以上にきめ細かく張りめぐらされています。根で吸収された水は背の高い樹木の先端の芽や葉までに届けられなければなりません。そのとき、根で働くのは、水を上に押し上げる根圧という力です。

■凝集力とは

根圧だけで水は植物の先端まで届きません。葉っぱから蒸散する水は根から吸収され、茎の中にある細い道管を通して葉っぱに運ばれます。道管内の水は切れ目なく満ちていて、水同士は強い力で結びつき、つながっているのです。水同士を結びつけてつながらせている強い力は、凝集力といわれます。水が水蒸気となって気孔から空気中に出ていくと、出ていく水に引っ張られて、下の水は上のほうに引き上げられます。ですから、先端の葉っぱから水が蒸散すれば、下から水が上ってくるようになります。

(参考資料: 中公新書「植物はすごい」、ソフトバンククリエイティブ「植物学「超」入門」、「葉っぱのふしぎ」ほか)

図 植物が高いところまで水を供給するしくみ



出典: 田中 修/著「葉っぱのふしぎ」
(SBクリエイティブ、2008年)

ペットボトルを使った観葉植物の寄せ植え体験でにぎわう

10月7日(月)、イオンモール旭川西店で行われていた第35回「旭川市の公園」絵画展示会場でペットボトルを使った観葉植物の寄せ植え体験を開催しました。2リットルのペットボトルの一面をくり抜いたものに、専用の用土を詰めて観葉植物を寄せ植えしていただくものです。当緑のセンターで育てた観葉植物やペットボトルセットを持ち込み、体験を希望される方々には無料で植えていただきました。



オリズランやインパチェンス、フィコイディアなど横に伸びる植物、葉を楽しむ植物、垂れ下がる植物など特徴的な植物8種類の中から3～4種類を選んでいただきました。専用の用土を1/3ほど入れて寄せ植えして残りの土を入れて完成です。午前、午後と希望者が殺到して予定数を大幅に上回る、子供さんから高齢者の皆さんなど70名の方々が、短時間でできる美しい寄せ植えを体験していただきました。



「初めての寄せ植えでしたが楽しかった」、「いいアドバイスをいただいてステキな寄せ植えができました」、「また、来年も参加したい」などと喜んでいただき、大事そうに持ち帰られました。

植物の病害虫

その52 「ドウガネブイブイ」



幼虫



成虫



キャベツの被害

1 寄生しやすい植物

ドウガネブイブイは甲虫目コガネムシ科の草食昆虫です。

幼虫はイチゴ、サツマイモ、サトイモ、落花生、野菜類、畑作物、芝生、苗木の根部に寄生し食害します。成虫はブドウ、クリ、カキ、ウメ、果樹、イヌマサキ、マサキ等の庭木、ナス、イチゴ、イチゴ、豆類に寄生し葉、花、果実を食害します。

2 被害

ドウガネブイブイの成虫は野菜の葉を食べますが、主に新葉を好みます。かじられた葉は不規則な穴が開きます。葉は光合成ができなくなり生育不良となります。幼虫は、土の中で野菜の根やサツマイモなどの根菜類を食べます。根を食べられた野菜は生育が止まります。商品価値がなくなり、そこに雑菌が侵入すると病気になります。

3 生態

成虫：卵型で体長約20～25mm、体全体が銅色で鋭い光沢があり、色彩は個体により青銅～緑銅色まで変異があります。

年1回の発生で、6月上～中旬に土中の蛹より羽化し、数日程潜伏した後に地上に出て、餌場となる庭木や果樹、花木等に移動します。寿命は30～50日におよび、日中は葉陰に潜んで交尾活動を繰り返しながら新葉を食害し、食べ尽くすと他に移動します。また、雌雄共に土中に潜む習性があります。

産卵は、日没ともに飛来し、暗くなるにつれて高度を下げて、幼虫の餌場となる場所を捜して着地します。土中を移動しながら主に地表下5～10cm、深いものは耕盤までの深さに数個～数十個かためて産卵し、生涯の産卵能力は200粒以上と考えられています。

幼虫：体形は扁平な円筒形で、土から掘り上げると体をC字型に丸めます。頭は黄褐色、胴部は乳白色で、体長は老熟幼虫(3齢)で4cm前後に成長し、その後淡黄色に変わります。

3齢になると摂食量が増大します。秋が深まり地温が低下すると、越冬のため土中深く潜入します。

4 防除法

未熟な有機物の施用は、雌成虫の産卵誘発と若齢幼虫の餌場となるので避けます。

近隣に雑草地や、成虫の生息地となる樹木がある圃場での栽培は注意する必要があります。

防除薬剤は、植付前にネオニコチノイド系粒剤(商品名アドマイヤー1粒剤)株当たり/1gを施用します。

冬期間に鉢花を楽しむ

冬は日照時間が少なくなり、暖房もフル稼働します。室内の鉢花は、なるべく暖かく日光の当たる所に置きます。

しかし、開花した鉢花は 25℃以上になってしまう場所では長持ちしません。また、明るい窓辺も夜になると冷え込むので、夜間は温度変化が少ない部屋の中央に移動させる配慮なども必要になります。



………< 失敗しない管理のコツ >………

- 1、水やりは3つ原則を踏まえて………水やりの目的は、①根に水を与える。②根に新鮮な空気を供給する。③鉢内の老廃物を洗い流す、ことです。給水することで、鉢内の植え込み材料が含んでいる古い空気を水と置き換え、さらに水分が植物に吸われたり、鉢から流れ出したあとに新鮮な空気が入り込んで根の呼吸を盛んにします。また、鉢底から流れるだけやることで鉢内の老廃物がある程度洗い流すことになるので、水やりを行う場合は十分に与え、受け皿の水を捨て、次の水やりは鉢内が乾くまで待つから……が原則です。鉢の表土が乾いていないのに水をやるのは根腐れを誘発するので、いけません。
- 2、乾燥に注意………冬は暖房によって温度を確保しますが、湿度が低下し、乾燥する方向に向かいます。このような環境はハダニが繁殖しやすくなります。ハダニの体長は 0.3~0.5mmと小さいのですが、植物の葉の裏に寄生して栄養を吸い取り、葉緑素を抜いて葉を白くします。多発生した場合はダニ専用薬剤で防除【ビフェナゼート水和剤(商品名:ダニ太郎)1,000 倍で散布。エトキサゾール水和剤(商品名:バロックフロアブル) 2,000 倍で散布。葉の裏表にかけ残しがないように丁寧に散布する。】が必要になります。毎日、葉の表裏に「霧吹き」することは、植物の調子が良くなり、ハダニ発生を抑制する効果もあります。
- 3、肥料に注意………開花期間が長い鉢花は、開花中も定期的に速効性の液体肥料を与えます。しかし、冬は肥料が濃いと根を傷め、根腐れの原因になるので液肥濃度をさらに2倍に薄めて、植物の根元ではなく、まわりの土に与えるのが無難です。観葉植物は半休眠状態になるので必要ありません。

展示室の植物 (87)

ウスネオイデス 学名 : *Tillandsia usneoides*

パイナップル科 チランジア属

展示室で無造作にぶら下がって育つ植物はウスネオイデスという名のエアプランツの仲間です。土に植えなくても葉の表面から空気中の水分を吸収して生長する、不思議な生態をしています。細い葉っぱをたくさん茂らせる姿がユニークなので、天井から吊るしたり、木や板に貼り付けたりと色々な楽しみ方ができます。

別名「スパニッシュモス」と呼ばれ、最近、ホームセンターでも販売されるようになってきました。また、見た目がサルオガセ(樹皮に付着する糸状の地衣類)に似ていることからサルオガセモドキという別名もあります。

